

# グローバル労働史の展開

マルセル・ファン・デア・リンデン／木下 順訳

---

## 【翻訳】

はじめに  
高まる関心  
グローバル労働史  
最初の研究結果  
データセットの構築

### はじめに

グローバル労働史は、2000年代初頭から急速に台頭してきた研究分野である。1980年代から1990年代にかけて、学者たちはすでにこの分野に取り組んではいたが、真のブレイクスルーが訪

---

本稿は Marcel van der Linden の近著 *The World Wide Web of Work : A History in the Making* (UCL Press, 2023) \* の「序章」のうち、学界展望の部分翻訳したものである。

この翻訳を試みたのは次のような経緯による。

訳者は、本誌第707・708号(2017年9・10月)において、リンデンの「グローバル・レイバー・ヒストリーの成果と課題」を翻訳・解説した。それがひとつのきっかけになって、リンデンと二人三脚でグローバル労働史を切り拓いてきたヤン・ルカセンの著書 *The Story of Work : a History of Humankind* (2021年) が、NHK出版より『仕事と人間——70万年のグローバル労働史(上・下)』として今年(2024年)3月に出版された。

本稿は、この翻訳出版プロジェクトがきっかけになっている。ルカセンが(上巻22頁で)述べているように、グローバル労働史は「実証的、方法論的、理論的な進歩の充溢する非常にダイナミックな分野」である。訳者は、翻訳に協力し、「解説」を執筆する中で、最新の研究状況を紹介する必要を感じ、この論文を訳出することにした。なお、著者の経歴などについては、『仕事と人間』の「解説」を参照されたい。

この翻訳を、先の翻訳「成果と課題」と併せて読んでいただければ、労働史の新しい方向について、得られるところが多いと思う。日本についての労働史研究も、グローバル労働史の視点に学べば、より豊かな成果が得られるかもしれない。関心を持たれた読者が、「引用文献」に列挙された原著や訳書を手にとられるとすれば、訳者として本望である。CiNiiなどで調べたかぎりでは、大原社会問題研究所や国立国会図書館などが所蔵している本もある。また書物によっては、オープンソースとして、インターネットで閲覧できるものもある。じつはこの書物 *The World Wide Web of Work* もまた(2024年5月現在)オープンソースである\*。

なお [ ] 内の文章は訳者が補足したことを示している。

最後に、質問などがあれば、訳者 (mp-5l-junk@road.ocn.ne.jp) にメールをください。

\* <https://library.oapen.org/handle/20.500.12657/63667>

れたのは20・21世紀転換期である<sup>(1)</sup>。この新しいアプローチは、グローバルサウスでもグローバルノースでも、あらゆる大陸で支持者を増やしている。とりわけ若い研究者たちが、この研究分野の提供する広い視野からインスピレーションを得ている。グローバル労働史は、何世紀にもわたる世界各地の仕事、労働者、労働関係を対象として、奴隷、年季奉公人、小作人、主婦や家事使用人などの相互関係を見出そうとしてきたのである。

## 高まる関心

労働史におけるグローバルなアプローチへの関心の高まりは、さまざまな形で現れている。いくつかの例を挙げれば、この傾向がよくわかるだろう<sup>(2)</sup>。第一に、「グローバル労働史」を標榜した雑誌やシリーズが次々と現われてきている。*International Review of Social History* (社会史国際雑誌) や *International Labor and Working Class History* (労働史・労働者階級史国際研究) は、この分野に踏み出した最初の雑誌である。また2003年には、ニューヨークを拠点とする権威ある雑誌 *Labor History* (労働史) (1960年創刊) が出版社との紛争に巻き込まれた。編集長であったレオン・フィンクは、40人あまりの関係者とともに辞職し、アメリカ労働者階級史学会を拠点とする雑誌を創刊した<sup>(3)</sup>。*Labor History* は新編集長クレイグ・フェランのもとで継続された。驚くべきことに両誌とも、もはや合衆国にとどまらず、その対象を地理的に拡大した。フィンクの定期刊行物は *Labor : Studies in Working-Class History of the Americas* (『労働——南北アメリカ大陸労働者階級史研究』) と名称変更され、アメリカ合衆国だけでなく、カナダやラテンアメリカも扱うことになった。そしてさらに数年後、副題を *Studies in Working-Class History* (労働者階級史研究) と改め、全世界を対象とするようになった。フェランの編集する『労働史』は、当初から「より国際的な範囲」を目指しており、「ヨーロッパ、アフリカ、アジア、ラテンアメリカの労働に関する歴史的な論文に重点を置いている<sup>(4)</sup>」。また、グローバル労働史をテーマとした単行本シリーズも現われている。ブリル社 (Brill) の *Studies in Global Social History* (Leiden, 2008年～)、ヴァルター・デ・グロイター社 (Walter de Gruyter) の *Work in Global and Historical Perspective* (Berlin, 2016年～)、そして本書をはじめとするUCLプレス社の *Work Around the World* (London, 2023年～) シリーズなどがそうである。

それと同時に、国境や大陸を越えた労働史研究者のネットワークが広がってゆき、比較研究やグローバル研究の発展と台頭を促進した。2013年、アムステルダムでヨーロッパ労働史ネットワークが設立され、2年ごとに会議が開催された (2015年トリノ、2017年パリ、2019年アムステルダム、2021年ウィーン)。2015年にはバルセロナで、グローバル労働史ネットワークが発足し、現在

(1) 「グローバル労働史 (global labour history)」という用語は、1999年にファン・デア・リンデンとヤン・ルカセンの共著 *Prolegomena* (プロレゴメナ、序説) で紹介され、2008年のリンデン著 *Workers of the World* (世界の労働者) で詳しく紹介された。本書は『世界の労働者』の続編である。

(2) 詳細は Lucassen, *Global Labour History*; Eckert, *Global Histories of Work*; Hofmeester & van der Linden, *Handbook Global History of Work*; van der Linden, *Global History of Work* を参照されたい。

(3) Smallwood & Glenn, 'Editor of "Labor History" quits'.

(4) Phelan, 'Editorial introduction', 4.

までにインド（2017年ノイダ）、スウェーデン（2020年ストックホルム）、セネガル（2022年サン・ルイ）で会議を開催している。2017年にはラパスで、REDLATTネットワーク（Red Latinoamericana y del Caribe de Trabajo y Trabajador@s）が設立され、2019年に第2回会議を開催し、独自のジャーナルREVLATT（*Revista Latinoamericana de Trabajo y Trabajadores*）を創刊した。さらに、国際ストライキ・社会紛争研究協会（International Association of Strikes and Social Conflicts）が2011年に設立され、会議（2011年リスボン、2013年デジョン、2015年バルセロナ、2018年サンパウロ、2022年ロッテルダム）を開催し、機関誌 *Workers of the World*（世界の労働者）を発行している。かつてはアムステルダムの国際社会史研究所（IISH）がグローバル労働史の唯一の学術センターであったが、現在では他の研究センターもこの分野に参入している。ベルリンを拠点とする国際研究機関「リワーク（re：work）——グローバル史における労働と人間のライフサイクル」は、ドイツ教育研究省から資金援助を受けており、重要である。2009年以來、アフリカ研究者のアンドレアス・エッケルトが運営し、毎年10人から15人の異なる学問分野と国籍の研究者が共同研究を行ってきた。残念ながら、この取り組みは現在終了している。ドイツでは2017年、イスラム学者ステファン・コナーマンのイニシアティブにより、「ボン従属・奴隷制研究センター」が設立され、「前近代社会における非対称的依存関係」を研究する大規模な研究者グループが活動している。加えて、グローバル労働史に完全に特化しているわけではないが、ウェザーヘッド・イニシアティブ・オン・グローバル・ヒストリー（ハーバード大学）、ワールド・ヒストリー・センター（ピッツバーグ大学）、コモディティーズ・オブ・エンパイア・プロジェクト（ロンドン大学）など、この分野に幅広く取り組む大学センターがますます増えている<sup>(5)</sup>。また、隣接する学問分野でも、例えば「グローバル労働研究」や「労働のグローバル人類学」などの動きがある<sup>(6)</sup>。

## グローバル労働史

とはいえグローバル労働史は、人気が高まっている反面、概念としては曖昧なままであり、明確で説得力のある定義に欠けている。実際のところ、この空隙は避け難かったのではないか。結局のところ、アーサー・ショーペンハウアーが観察したように、「詩人は詩を作る前に美を論じない」のである。いまや、グローバル労働史の研究がかなり積み重ねられてきたから、そろそろ研究対象を正確に定義しようと試みてもよいかもしれない。

最初に問うべきは、「労働史とは何か？」であろう。「労働史」という言葉には、つねに二重の意味がある。厳密に言えば、この概念は労働運動の歴史を指している。労働組合、協同組合、ストライキ、労働者政党などである。より広義に解釈すれば、この概念は労働者階級の歴史にも言及し、例えば労働関係、家族生活、メンタリティの発展を指す。この曖昧さが英語におけるこの用語

(5) Weatherhead Initiative on Global History ; World History Center ; Commodities of Empire project.

(6) 例えば Taylor & Rioux, *Global Labour Studies* ; Munck, *Rethinking Global Labour*, Kasmir & Carbonella, *Blood and Fire*. また2017年には雑誌『弁証法人類学（*Dialectical Anthropology*）』が「Workers of the World!（世界の労働者）」というフォーラムを設けた。

「labour history」の特徴であるように思われる。英語以外の多くの言語では、労働運動史と労働者階級史とを同じ言葉で示すことができない。

「広義の」労働史は「狭義の」労働史よりも以前から始まっていた。広義の労働史は、西ヨーロッパにおいて資本主義の発展が一定の段階まで進むと、それともなう社会変化とりわけ「社会問題」を歴史的に位置づける必要性が生じたために、書かれはじめた<sup>(7)</sup>。このような路線に沿ったプロジェクトは、早くも1848年革命の余波の中で行われた。この潮流では「労働」がたいへん広い意味で受け取られる傾向にあった。例えば、エミール・ルヴァスール (Emile Levasseur, 1828-1911) は、1850年代後半から1860年代にかけて、ジュリアス・シーザー以来のフランス労働史に関する4巻本を出版した先駆者であるが、「労働階級」を「若輩の徒弟から大商人に至るまで、工業において、また工業との関わりで生計を立てるすべての人びと」と定義した<sup>(8)</sup>。他方、「狭義の」労働史が現われたのは1870年代に入ってからであり、これには理論的要因だけでなく、政治的要因も寄与している。すなわち政治においては、1860年代後半以降、労働運動が全国的な規模で見られるようになったことが重要である。1868年にイギリス労働組合会議が設立され、その後数十年の間に、1886年に創立されたカナダ労働組合会議やアメリカ労働総同盟など、北大西洋全域の国々で全国規模の労働組合連合会が次々と設立された。同じ時期に労働者階級政党の台頭も始まった。こうして、労働運動が社会に定着しつつあることが、誰の目にも明らかになった。それは、理論面においては、「賃金基金説」が廃棄されたことが背景にあった。この理論は、「自然賃金」が存在するから労働者が集団で行動しても賃金は上がらないとするものであった。ほぼ1870年代までに賃金基金説が疑問視されるようになり、ヨーロッパや北アメリカの理論家たちはこれを支持しなくなったのである。明らかにイギリス組合運動の展開がこの転換に一役買った。

このような政治的・理論的背景のもとで、多くの研究者が労働運動史に関心を持つようになった。かれら労働史家はたいてい左派に属しており、そのほとんどが社会主義者または社会についての意識の高い自由主義者であった。時代を画したのは、1870年に『ギルドの歴史と発展、労働組合の起源』を出版したドイツの経済学者ルヨ・ブレンターノ (1844-1931) である。米国の経済学者リチャード・T・イーリー (1854-1943) がこれに続き、『アメリカの労働運動』を1886年に出版した<sup>(9)</sup>。こうして1870年代から80年代にかけて、広義の労働史と狭義の労働史の両方の基礎が築かれた。

当初、2つの労働史は区別されていた。狭義の労働史は、もっぱらと言わないまでも、おもに制度に沿ったものであり、組織の発展、政治的議論、指導者、ストライキの記述に主眼を置いていた。シドニーとベアトリス・ウェップ、ジョン・コモンズらのウィスコンシン学派、そしてフィリップ・フォナーのようなマルクス主義者らがその代表であった。もっとも、イギリスのジョン・ハモンドとバーバラ・ハモンドが著した、『村の労働者』(1911年)、『町の労働者』(1917年)、『熟練労働者』(1920年) という浩瀚な三部作は、[広義の労働史に属する] 例外である<sup>(10)</sup>。しかし、

(7) Breman et al., *The Social Question in the Twenty-First Century*.

(8) Levasseur, *Histoire des classes ouvrières*, I, III.

(9) Brentano, *On the History and Development of Guilds*; Ely, *Labor Movement in America*.

(10) Hammond & Hammond, *The Village Labourer*; *The Town Labourer*; *The Skilled Labourer*.

1950年代から1960年代にかけて、労働者の闘争がより頻繁に〔社会的文化的〕文脈の中で理解されるようになり、広義の労働史と狭義の労働史が和解しはじめた。エリック・ホブズボームはこれについて、「新しい」アプローチは、「労働者階級というもの……と、労働運動が効果的であることを可能にした、あるいは効果的であることを妨げた経済的・技術的条件」を強調した、と評している<sup>(11)</sup>。この転換点を示す書物は、何といたってもE・P・トムソンの『イングランド労働者階級の形成』(1963年)であろう<sup>(12)</sup>。それ以降、労働史研究は劇的に刷新された。労働過程や日常文化をはじめ、ジェンダー、エスニシティ、人種、年齢、そして家族構造、性差、インフォーマルな政治などが、ようやくそれにふさわしい注目を集めるようになった。

とはいえ『イングランド労働者階級の形成』は、画期的な業績ではあるものの、それ以前の労働史と連続している面があった。すなわち、労働史研究は当初から「方法論的ナショナリズム」と「ヨーロッパ中心主義」によって特徴づけられていたのである。方法論的ナショナリズムは、社会と国家を結びつけ、さまざまな国民国家を歴史研究のための「ライブニッツのモノド [= それ自体で閉じている存在]」と考える。ヨーロッパ中心主義とは、北大西洋地域の立場から世界を秩序づける考え方である。それによれば「近代」とはヨーロッパと北アメリカから始まるものであり、そこから世界の他の地域へと段階的に拡がってゆくという。そして、この「中核的地域 (core region)」の時期区分が、世界の他の地域の発展の時代性を決定する。それゆえ歴史家たちは、フランス、イギリス、アメリカ合衆国などにおける労働階級と労働運動の歴史を、それぞれ固有の発展ととらえた。ラテンアメリカ、アフリカ、アジアにおける社会階級や社会運動に取り組む場合であっても、北大西洋のスキームに沿って解釈された。

とはいえ、労働史家たちが国境を越えなかったというわけではない。たしかに国境の向こうに目を向けてはいた。とはいえ、その場合ですらアプローチはモノドロジカル (閉鎖的) であった。すなわち「文明化された」ヨーロッパ世界は、歩みの早い民族も遅い民族もあるけれど、すべて同じ方向に向かって歩んでいる民族から構成されている、と考えられたのである。他の国よりも進んでいる国があって、「後進」諸国は自分たちの将来が多かれ少なかれその先進国に表象されている、と考えていたのである。

このようなヨーロッパ中心主義のモノドロジーが全体として疑問視されるようになったのは、ここ数十年のことである。この第二の転換点は、第二次世界大戦以降に起こった、あるいはそれ以前に始まった、一連の変化に関連している。すなわち、脱植民地化によって、アフリカとアジアをはじめとする多くの新興国が生まれ、自分の国の社会史を研究しはじめたこと、汎アフリカ主義のような大陸横断的な想像の共同体を生み出す概念が創出されたこと、国境文化やトランスカルチャーの移民共同体の「発見」、抗議やストライキのトランスナショナルなサイクルの発見などである。

次の論点は、グローバルとは何かということだ。さまざまな見解があるけれども、私はグローバル労働史を、美術史や言語学と同じような、固有の「研究分野 (field of research)」だと考えている。この研究分野では、カール・マルクスやマックス・ウェーバーなどの思想家から着想を得て、

(11) Hobsbawm, *Labouring Men*, 4.

(12) Thompson, *The Making of the English Working Class*.

さまざまな理論を構築し、検証することができる。グローバル労働史はそれ自体「理論 (theory)」ではない。したがってイマニュエル・ウォーラーステインの世界システム論や資本主義世界秩序の他の解釈に代わる理論ではない。とはいえ、この論点はその性質上、この研究分野の次元と境界をどのように定義すべきかを要請している。

1980年代以降、歴史家は国民国家の境界を相対化するようになった。当初、彼らはこの固定化を間接的に (implicitly) 批判しようと試みた。グローバルサウスの歴史家たちは、どんな国であっても、その国が自己完結的な単位であるかのように労働史を書くことは不可能だ、と結論づけていた。例えば、[長いあいだ植民地支配のもとにあった] ベトナム、ナイジェリア、インドネシアの労働者階級の歴史を、宗主国であったフランス、イギリス、オランダとのつながりを考慮することなしに、再構築することなどできるだろうか。さらに、奴隷制 (および奴隷貿易) や [移民契約によって仕事に縛りつけられた] 契約労働者 (「クーリー」) の搾取といった労働関係に目を向けることなしに、これらの国々の賃金労働者の歴史が書けるだろうか。

グローバル労働史は、新しいアプローチを開拓してゆくことによって、こうした批判を受け入れようとするものである。だがそれにしてもグローバルヒストリーとは何だろうか。私の考えでは、グローバルヒストリーとは主に、相互作用・影響・移転といった、世界的な地域どうしの結びつきの強まり (あるいは弱まり) と、その役割を果たした経済的、政治的、社会的、文化的ネットワーク、制度、メディアを記述し、説明することである。この歴史学は、グローバリゼーションという言葉をよくほど広く定義しない限り、グローバリゼーションの歴史学を乗り越えてしまう。複合的かつ不均等な差異がどう発展したのか。その原因と結果を探る比較研究は、グローバル労働史に不可欠な要素である。

「グローバル」という形容詞は、例えば中国とヨーロッパの「大分岐 (great divergence)」や、世界大戦とヘゲモニーの関係など、「大きな歴史」だけが含まれるような印象を与えかねない。しかしそうではない。グローバルヒストリーは大規模なものだけでなく、マイクロヒストリーをも含んでいる。小さな村、仕事場、あるいは家族のグローバルヒストリーを書くことは十分に可能である。大切なことは、政治的・地理的フロンティア、年代、地域、学問分野などの境界を乗り越え、私たちの関心にもとづいて、痕跡を辿ってゆくことである。移民パターン、マスメディア、世界市場、法人企業、宗教的ヒエラルキー、気候変動、戦争など、すべてのものがより広い世界への架け橋となる。相互のつながりや説明を発見するのに、距離の近いところで済むこともあれば、遠くまで足を延ばさなければならないこともある。

明らかに、いくつかの集団は相対的に孤立した生活を送り、他の集団とはせいぜい散発的な長距離交易でつながっていた。世界史は「あらゆるものの歴史」ではないが、実現しなかった相互作用や移転もまた興味深いものである以上、そのような集団もまた探求の対象である。全体像を細部に落とし込むこと (逆に言えば、マクロなプロセスからマイクロな現実を発見すること)こそが重要なのだ! したがってグローバルヒストリーは視点が重要になる。研究者は大胆に探究し、慣れ親しんだ土俵から飛び出す勇気を持たねばならない。

## 最初の研究結果

グローバル労働史の影響は、まず第一に、商品化された労働の諸形態を学者たちが精査していることに顕われている。賃金労働と奴隷制に加えて、囚人労働者、債務奴隷 (debt peons)、先住民労働、植民地強制労働といった対象も、いまや大きな関心を集めている<sup>(13)</sup>。家事使用人や郵便配達人など、これまでほとんど顧みられることのなかった職業が、文献の中で探求されている<sup>(14)</sup>。「入植植民地」における先住民労働への関心も徐々に高まりつつあり<sup>(15)</sup>、「社会主義」中・東欧や旧ソ連における労働者階級の研究も進みつつある<sup>(16)</sup>。

国際比較研究は、かつては裕福な国々どうしを比較していたけれども、いまや狭い枠を乗り越え、激しい勢いで増加している。職業グループをはじめとする労働階級のセグメントは、依然として比較分析の対象である。当初は炭鉱夫の研究が盛んであったが、これに続いて、港湾労働者、船員、繊維労働者、レンガ職人、兵士、売春婦、造船労働者、家事・介護労働者、児童労働者を扱った大規模な研究が行われている<sup>(17)</sup>。また、労働者の抵抗や組織がグローバルな文脈で描かれることも増えている。逃亡奴隷 (runaways)、無政府主義者やサンジカリストの運動、革命的汎アフリカ主義、都市社会主義などに、考察の対象は広がってきている<sup>(18)</sup>。とはいえ、これらの比較研究は、個々の事例どうしを対比するレベルにとどまるという、問題を抱えている。それではいけない。ネヴィル・カークが指摘しているように、その最終目標は、「それぞれの国ごとに事例付加的あるい

---

(13) 例 えば DeVito & Lichtenstein, *Global Convict Labor*; Anderson, *Global History of Convicts and Penal Colonies*; van der Linden & Rodríguez García, *On Coerced Labor*; Barragán, *Potosí Global*; Seibert, *In die globale Wirtschaft gezwungen*; Breman, *Mobilizing Labour*. 奴隷制についての諸研究を鮮やかに統合したのが、Zeuske の記念碑的な作品 *Handbuch Geschichte der Sklaverei*. である。この本は英訳に値する。

(14) 例 えば, Sinha, Varma & Jha, *Servants' Pasts*; Sinha & Varma, *Servants' Pasts*; Martínez, et al., *Colonialism and Male Domestic Service*; Joshi, 'Dak roads, Dak runners.'

(15) Mysyk, 'Land, labor, and indigenous response'; Parnaby, 'Indigenous labor'; Riseman, 'Australian [mis] treatment of indigenous labour'; Weinberg & Mercolli, 'Sweet Death'; Barragán, 'Trabajo forzado, indígena, femenino'; Martínez & Vickers, *Pearl Frontier*.

(16) 例 えば, Sozialgeschichtliche Kommunismusforschung; Hübner & Tenfelde, *Arbeiter in der SBZ-DDR*; Hübner, Klessmann & Tenfelde, *Arbeiter im Staatssozialismus*; Filtzer et al., *Dream Deferred*; Bartha, *Alienating Labour*; Cucu, *Planning Labour*; Siefert, *Labor in State Socialist Europe*. ソビエト連邦についての研究は数多くある。中でも Donald A. Philp による *Soviet Workers* に関する 4 冊の著書は注目に値する。

(17) Feldman & Tenfelde, *Workers, Owners and Politics*; Gier & Mercier, *Mining Women*; Davies et al., *Dock Workers*; Fink, *Sweatshops at Sea*; Heerma van Voss, Hiemstra-Kuperus & Van Nederveen Meerkerk, *Ashgate Companion*; Beckert, *Empire of Cotton*; Kessler & Lucassen, 'Labour relations, efficiency and the great divergence'; Zürcher, *Fighting for a Living*; Haymond, *Soldiers*; Rodríguez García, Heerma van Voss & van Nederveen Meerkerk, *Selling Sex in the City*; Varela, Murphy & van der Linden, *Shipbuilding and Ship Repair Workers*; Hoerder, van Nederveen Meerkerk & Neunsinger, *Towards a Global History of Domestic and Caregiving Workers*; Lieten & van Nederveen Meerkerk, *Child Labour's Global Past*. Freeman, *Behemoth* も参照のこと。

(18) Silver, *Forces of Labor*; Rediker, Chakraborty & van Rossum, *Global History of Runaways*; van der Walt & Hirsch, *Anarchism and Syndicalism*; Weiss, *Framing a Radical African Atlantic*; Slucki, *The International Jewish Labor Bund*; Shelton Stromquist, *Democratizing Cities* [同じ著者の *Claiming the City* であると思われる]。

は事例並列的な研究を並べ立てて、比較を行うという努力を読者の手に委ねてしまうのではなく、[著者みずからが] 国家間の類似点と相違点を探り出し、説明すること」にあるのだ<sup>(19)</sup>。

現在のところ、世界のさまざまな地域における発展のつながりを明らかにすることを目的とした研究は、たいへん少ない。ジェファーソン・コーウィーは、その革新的なモノグラフの中で、RCA（ラジオ・コーポレーション・オブ・アメリカ）が、20世紀のあいだに、安価で従順な労働者を求めてインディアナ州ブルーミントンからメキシコのシウダー・フアレスへと生産拠点を移していった有様を、解明した。またアビバ・チョムスキーは、ニューイングランドから合衆国南部へ、さらにプエルトリコ、日本、メキシコ、中央アメリカ、カリブ海諸国、コロンビアへと、繊維産業が移転してゆく軌跡を辿っている。チョムスキーは、大都市資本（metropolitan capital）の低賃金国への逃避は、大都市における安価な外国人労働者の雇用を反映していると見ている。他にも、ピーター・ラインボーとマークス・レディカーは、先駆的な著書『多頭のヒュドラ』の中で、18世紀には賃金労働者と奴隷が耐え難い労働関係に抵抗するために力を合わせるがあったことを、説得的に実証している<sup>(20)</sup>。中でもアレッサンドロ・スタンツィアーニの精力的な作品群は特筆に値する。もともとロシアを研究していたのだが、研究対象を地理的に大きく拡大し、現在ではおもに世界各地における債務労働（bonded labour）の比較と関連性に関心を寄せている<sup>(21)</sup>。

魅力的な視点を持つ研究が他にも続々と登場している。例えばコモディティ・チェーン（サプライ・チェーン）への着目。コモディティ・チェーンとは、鉱山労働者や農業従事者と、商品の最終生産者や消費者とを、さまざまな中間段階を経て結びつける一連の生産[および流通の]プロセスのことである。コモディティ・チェーンはこうして世界中の労働者を結びつける。カリン・ホフメスターは、南アフリカやブラジルなどで採掘され、最終的にスラート、テルアビブ、アントワープで加工される、ダイヤモンドを例に取った。綿（めん）についてのスヴェン・ベッカートの大著も、コモディティ・チェーンがどのように機能しているかを示す、魅力的な例である<sup>(22)</sup>。また、エリス・ファン・ネデルヴェン・ミールケルクは、植民地時代における社会の矛盾が、植民地ジャワと宗主国オランダの両方で、女性の経済的役割にどのような影響を及ぼしたか明らかにしている<sup>(23)</sup>。

強制労働や「自由」移民労働をめぐるグローバルヒストリーは、はじめは大西洋地域を対象として研究されていたのだが、そこから真にグローバルなアプローチへと道を切り拓き、飛躍的な進歩をもたらした<sup>(24)</sup>。アダム・マッキューンは、若くして亡くなったが、その画期的な研究の中で、19

---

(19) Kirk, 'Transnational labor history', 21.

(20) Cowie, *Capital Moves*; Chomsky, *Linked Labor Histories*; Linebaugh & Rediker, *Many-Headed Hydra*. これらを Fink の *Maya of Morganton* と比較せよ。

(21) Stanziani, *Le travail contraint*; *Bâtisseurs d'empires*; *Labour, Coercion, and Economic Growth*; *Bondage*.

(22) Hofmeester, 'Diamonds from mine to finger'; Beckert, *Empire of Cotton*（綿の帝国）。なお Komlosy & Musić, *Commodity Chains and Labor Relations* も参照されたい。

(23) Van Nederveen Meerkerk, *Women, Work and Colonialism*.

(24) Hoerder, *Cultures in Contact*; McKeown, *Melancholy Order*; Lucassen, Lucassen & Manning, *Migration History in World History*; Gabaccia & Hoerder, *Connecting Seas and Connected Ocean Rims*; Bosma, Kessler & Lucassen, *Migration and Membership Regimes*; Hoerder & Kaur, *Proletarian and Gendered Mass Migrations*.



世紀におけるアジアの移民が大西洋の移民に匹敵する規模であったことを明らかにした<sup>(25)</sup>。ウルベ・ボスマは、マッキューンと同様、移民がどこに到着したかではなく、移民がどこから来たのかを第一に考えた。フィリピンとインドネシアがいかにして労働力の大量輸出国になったかについて彼が提示した説明は、いっそう活発な議論を生むに違いない<sup>(26)</sup>。ヤン・ルカセンとレオ・ルカセンは、1500年から2000年までの期間について、異文化間の移民を定量化し定性化する普遍的な方法を開発し、研究者が地域差を視覚的に示すことができるようにした<sup>(27)</sup>。

19世紀になると、すでに述べたように、労働運動の諸制度が労働史家によって扱われはじめた。現在ではこの側面は、グローバルな視点のもとに、社会的・経済的視点から取り上げられることが多くなっている。第一インターナショナル（1864-76年）、消費者協同組合、労働組合などに関する重要な研究が次々と発表されている<sup>(28)</sup>。さらに、21世紀に入った頃から、ILOが多くの研究者を活用（recruit）するようになった<sup>(29)</sup>。

先駆的な概説書も登場している。2006年、ヤン・ルカセンは『グローバル労働史』という論文集を出版し、世界を股にかける歴史研究を紹介した。カリン・ホフメスターと私が編集した『ハンドブック』は、このルカセンのエッセイ集と比べてみると、仕事の諸類型や労使関係（labour relations）やインセンティブや労働者組織および抵抗運動に焦点を当てている<sup>(30)</sup>。アンドレア・コムロシーは、刺激的な論文の中で、過去千年間のさまざまな労働形態（有給／無給、自由／非自由など）の共存と相互作用をジェンダーの視点から取り上げている<sup>(31)</sup>。ヤン・ルカセンは、古代メソポタミア以来の労働の「簡潔な」歴史という、たいへん野心的な本を書いた<sup>(32)</sup>。そして、ステファノ・ベルッチとアンドレアス・エッケルトがコーディネートした『アフリカ労働史』の出版はとくに重要である<sup>(33)</sup>。この素晴らしい論文集は、ほぼ1900年以降をカバーしている。それ以前のアフリカ労働史に関する書籍も準備中であるとのことである。

(25) McKeown, 'Global migration, 1846-1940'; McKeown, 'World migration'.

(26) Bosma, *Making of a Periphery*.

(27) 基本となるテキスト化作業は、Lucassen & Lucassen, 'Mobility transition revisited' である。なお、Lucassen & Lucassen, *Globalising Migration History* も参照されたい。

(28) Bensimon, Deluermoz & Moisan, 'Arise Ye Wretched of the Earth'; Hilson, Neunsinger & Patmore, *Global History of Consumer Co-operation*; Phelan, *Trade Unionism since 1945*; van der Linden, *International Confederation of Free Trade Unions*; Van Goethem, *Amsterdam International*; Rodríguez Garcia, *Liberal Workers of the World, Unite?*; Waters & Van Goethem, *American Labor's Global Ambassadors*; Carew, *American Labour's Cold War Abroad*.

(29) 本書第12章およびMaul, *International Labour Organization* の参考文献を参照されたい。

(30) Lucassen, *Global Labour History*; Hofmeester & van der Linden, *Handbook Global History of Work*.

(31) Komlosy, *Work: The Last 1,000 Years*.

(32) Lucassen, *The Story of Work*. 『仕事と人間——70万年のグローバル労働史』。

(33) Bellucci & Eckert, *General Labour History of Africa*. なお Fall, *Le travail au Sénégal au XXe siècle* も参照されたい。

## データセットの構築

多くの研究機関で、グローバルなデータセットを構築しようとする取り組みが行われている。ILOは、1920年代から、世界の労働力の構成と発展、労働安全衛生、社会保障、労働時間などの統計データだけでなく、国際労働基準や労働法・社会保障法に関する国別の統計データも収集してきた<sup>(34)</sup>。この方面における初期の統計作成の取り組みのひとつは、イマニュエル・ウォーラーステインの世界システム論に触発され、1980年代にビンガムトンのフェルナン・ブローデル・センターで始まった、労働不安に関するグローバル・データベースであった<sup>(35)</sup>。これは手作業で行われたが、コンピュータを用いたデータマイニング技術が発明されて以来、ストライキに関するより広範で正確なデータセットが構築できるようになった<sup>(36)</sup>。

ヤン・ルイテン・ファン・ザンデンの主導のもとで、2010年から発展してきた、相互接続されたデータベース群「クリオ・インフラ (Clio Infra)」は、たいへん役に立つ。クリオ・インフラは、過去5世紀にわたる世界の経済成長と不平等の長期的発展に関する情報を提供している<sup>(37)</sup>。パトリック・マニングが率いるピッツバーグ大学の世界史情報共同体 (Collaborative for World-Historical Information) は、世界史分析を可能にするグローバル・アーカイブを2011年から開発しており、クリオ・インフラと重なる部分もある<sup>(38)</sup>。どちらも労働に特化しているわけではないけれども、労働に関する情報が豊富にある。

IISHのスタッフであるヤン・ルカセンのイニシアティブにより、グローバル労働史の研究から直接派生した「1500年から2000年の労働関係史に関するグローバル・コラボラトリー (Global Collaboratory on the History of Labour Relations, 1500-2000)」が発足した。主幹コーディネーターのカリン・ホフメスターは、プロジェクトの経過を次のように説明している。

このプロジェクトの第1段階 (2007年～2012年) では、データマイニングが行われた。国際的な研究者の大規模なグループがワークショップに参加し、オンラインで共同作業を行い、1500年、1650年、1800年、1900年 (アフリカについては1950年も)、2000年の5つの時系列における世界各地のあらゆる種類の労働関係の発生に関するデータを含む多数のデータセットを作成した。プロジェクトの第2段階では、労働関係のシフトの説明と、そこで観察される可能性のあるパターンの探求に着手する。国家の役割、人口動態と家族形態、経済制度の役割、自営業への移行と自営業からの移行を決定するメカニズムなど、説明可能な要因を詳しく

(34) ILOSTAT ; NORMLEX.

(35) 最新情報が Silver, Arrighi & Dubofsky, 'Labor unrest' に掲載されている。このデータベースは、労働運動の発生を資本移動、製品サイクル、世界政治と関連づけた、Silverの画期的な作品 *Forces of Labor* の基礎となった。

(36) Sjaak van der Veldenはこの分野で先駆的な仕事をしている。これについては *Striking Numbers*, や 'Strikes, lockouts, and informal resistance' などを参照されたい。データセットについては Global Hub Labour Conflicts を参照。

(37) Clio-Infra. クリオ・インフラにもとづいた作品として、Van Zanden et al., *How Was Life?* がある。

(38) CHIA.

調べることで、労働関係のシフトの原因と結果を探る<sup>(39)</sup>。

その間に、この共同研究は数多くの出版物を生み出した<sup>(40)</sup>。

全体として、国境や大陸を越えた労働市場の発展について、驚くほど豊富なデータが収集されている。エモリー大学には、1990年代から構築してきた大西洋横断奴隷航海に関する巨大なマルチソースデータセットのリポジトリがある。このリソースには現在、1514年から1866年までの3万6千件の奴隷航海に関する情報が含まれている<sup>(41)</sup>。アムステルダムでは、東アジア、東南アジア、南アジア、東アフリカを含むアジアの奴隷貿易に関するデータセットも2016年から構築中である<sup>(42)</sup>。奴隷に比べると、年季奉公人に関するデータセットの構築はあまり進んでいない。例外は、1858年から1930年の間にスリナムに移送された中国人、南アジア人、ジャワ人の契約労働者に関するとくに詳細なデータセットである<sup>(43)</sup>。「自由な」労働移民の移動に関する資料は豊富にあり、国連（国際移住機関やILO）などの機関によって収集されている<sup>(44)</sup>。

(Marcel van der Linden 社会史国際研究所上級研究員)

(きのした・じゅん 法政大学大原社会問題研究所嘱託研究員)

#### 【引用文献】

- Anderson, Clare (ed.). *A Global History of Convicts and Penal Colonies*. London : Bloomsbury Academic, 2018.
- Barragán Romano, Rossana. *Potosí Global : Viajando Con Sus Primeras imágenes, 1550-1650*. La Paz : Plural, 2019.
- Bartha, Eszter. *Alienating Labour : Workers on the road from socialism to capitalism in East Germany and Hungary*. New York and Oxford : Berghahn, 2013.
- Beckert, Sven. *Empire of Cotton : A global history*. New York : Alfred A. Knopf, 2014. スヴェン・ベッカート著、鬼澤忍・佐藤絵里訳『綿の帝国——グローバル資本主義はいかに生まれたか』（紀伊國屋書店、2022年）

(39) Hofmeester, 'Labour relations: Introductory remarks', 317. データセットはHistory of Labour Relationsのウェブサイトに掲載されている。

(40) 主な出版物は以下の通り。Hofmeester & Moll-Murata, *Joy and Pain of Work* ; Mattos, *Relações laborais em Portugal e no mundo lusófono* ; Hofmeester, Lucassen & Ribeiro da Silva, 'Labour Relations in Sub-Saharan Africa' ; Hofmeester, Kessler & Moll-Murata, *Conquerors, Employers and Arbiters* ; Mattos, Terra & Varela, *Historia das relações de trabalho* ; Hofmeester & van Nederveen-Meerkerk, 'Family, demography and labour relations' ; Hofmeester & de Zwart, *Colonialism* ; Hofmeester & Lucassen, 'Shifting labor relations'.

(41) David Eltis by Leonardo Marques, SlaveVoyagesのウェブサイトを参照。このプロジェクトの背景については、レオナルド・マルケスによる指導の人物デイヴィッド・エルティスへのインタビュー 'Digital history of the transatlantic slave trade' で述べられている。

(42) ESTA : Exploring Slave Trade in Asia ; Towards an Indian Ocean and maritime Asia slave trade database.

(43) これらのデータセットは、民間企業アムリット・コンサルタンシー（シトラ・ボヌーとサンデウ・ヒラ）のイニシアティブによって収集された。これらはハーグの国立公文書館が管理している。Chinese contractarbeiders in Suriname 1858-1874 ; Hindostanen in Suriname ; Javaanse contractarbeiders in Suriname 1890-1930（オランダ語のみ）を参照。

(44) Migration Data Portal ; ILOSTAT.

- Bellucci, Stefano and Andreas Eckert (eds). *General Labour History of Africa : Workers, employers and governments, 20th-21st centuries*. Woodbridge : James Currey, 2019.
- Bensimon, Fabrice, Quentin Deluermoz and Jeanne Moisan (eds). *'Arise Ye Wretched of the Earth' : The First International in a global perspective*. Leiden and Boston : Brill, 2018.
- Bosma, Ulbe. *The Making of a Periphery : How island Southeast Asia became a mass exporter of labor*. New York : Columbia University Press, 2019.
- Bosma, Ulbe, Gijs Kessler and Leo Lucassen (eds). *Migration and Membership Regimes in Global and Historical Perspective : An introduction*. Leiden and Boston : Brill, 2013.
- Breman, Jan. *Mobilizing Labour for the Global Coffee Market : Profits from an unfree work regime in colonial Java*. Amsterdam : Amsterdam University Press, 2015.
- Breman, Jan, Kevan Harris, Ching Kwan Lee and Marcel van der Linden (eds). *The Social Question in the Twenty-First Century : A global view*. Berkeley : University of California Press, 2019.
- Carew, Anthony. *American Labour's Cold War Abroad : From deep freeze to détente, 1945-1970*. Edmonton, AB : AU Press, 2018.
- CHIA (Collaborative for Historical Information and Analysis). <http://www.chia.pitt.edu/>.
- Chinese contractarbeiders in Suriname 1858-1874. National Archives of the Netherlands. <https://www.nationaalarchief.nl/onderzoeken/zoekhulpen/chinese-contractarbeiders-in-suriname-1858-1874>.
- Chomsky, Aviva. *Linked Labor Histories : New England, Colombia, and the making of a global working class*. Durham, NC : Duke University Press, 2008.
- Clio-Infra. <https://clio-infra.eu/>.
- Cowie, Jefferson. *Capital Moves : RCA's Seventy-year quest for cheap labor*. Ithaca, NY: Cornell University Press, 1999.
- Cucu, Alina-Sandra. *Planning Labour : Time and the foundations of industrial socialism in Romania*. New York and Oxford : Berghahn, 2019.
- Davies, Sam, Colin J. Davis, David de Vries, Lex Heerma van Voss, Lidewij Hesselink and Klaus Weinhauer (eds). *Dock Workers : International explorations in comparative labour history, 1790-1970*. Two volumes. Aldershot : Ashgate, 2000.
- De Vito, Christian and Alex Lichtenstein. *Global Convict Labor*. Leiden and Boston : Brill, 2015.
- Eckert, Andreas (ed.). *Global Histories of Work*. Berlin : Walter de Gruyter, 2016.
- ESTA (Exploring Slave Trade in Asia) (online resource). <https://iisg.amsterdam/en/research/projects/slave-trade-asia>
- Fall, Babacar. *Le travail au Sénégal au XXe siècle*. Paris : Karthala, 2011.
- Feldman, Gerald D. and Klaus Tenfelde (eds). *Workers, Owners and Politics in Coal Mining : An international comparison of industrial relations*. New York: Berg, 1990.
- Filtzer, Donald A. *Soviet Workers and De-Stalinization : The consolidation of the modern system of Soviet production relations, 1953-1964*. Cambridge : Cambridge University Press, 1992.
- Filtzer, Donald A. *Soviet Workers and Late Stalinism : Labour and the restoration of the Stalinist system after World War II*. Cambridge : Cambridge University Press, 2002.
- Filtzer, Donald A. *Soviet Workers and Stalinist Industrialization : The formation of modern Soviet production relations, 1928-1941*. London and Dover, NH : Pluto Press, 1986.
- Filtzer, Donald A. *Soviet Workers and the Collapse of Perestroika : The Soviet labour process and Gorbachev's reforms, 1985-1991*. Cambridge : Cambridge University Press, 1992.
- Filtzer, Donald, Wendy Z. Goldman, Gijs Kessler and Simon Pirani (eds). *A Dream Deferred : New studies in Russian and Soviet labour history*. New York : Peter Lang, 2008.
- Fink, Leon. *The Maya of Morganton : Work and community in the nuevo new south Attribution*. Chapel Hill : University of North Carolina Press, 2003.

- Fink, Leon. *Sweatshops at Sea : Merchant seamen in the world's first globalized industry, from 1812 to the present*. Chapel Hill : University of North Carolina Press, 2011.
- Freeman, Joshua B. *Behemoth : A history of the factory and the making of the modern world*. New York and London : W. W. Norton, 2018.
- Gabaccia, Donna R. and Dirk Hoerder (eds). *Connecting Seas and Connected Ocean Rims : Indian, Atlantic, and Pacific Oceans and China Seas migrations from the 1830s to the 1930s*. Leiden and Boston : Brill, 2011.
- Gier, Jaclyn J. and Laurie Mercier (eds). *Mining Women : Gender in the development of a global industry, 1670 to 2005*. New York : Palgrave Macmillan, 2006.
- Global Hub Labour Conflicts (International Institute of Social History). <https://datasets.iisg.amsterdam/dataverse/labourconflicts>.
- Haymond, John A. *Soldiers: A global history of the fighting man, 1800–1945*. Lanham, MD : Stackpole Books, 2019.
- Heerma van Voss, Lex, Els Hiemstra-Kuperus and Elise van Nederveen Meerkerk (eds). *The Ashgate Companion to the History of Textile Workers, 1650–2000*. Farnham : Ashgate, 2010.
- Hilson, Mary, Silke Neunsinger and Greg Patmore (eds). *A Global History of Consumer Co-operation since 1850 : Movements and businesses*. Leiden and Boston : Brill, 2017.
- Hindostanen in Suriname. National Archives of the Netherlands. <https://www.nationaalarchief.nl/onderzoeken/zoekhulpen/hindostanen-in-suriname#collapse-8684>.
- History of Labour Relations (Global Collaboratory on the History of Labour Relations, 1500–2000). <https://datasets.iisg.amsterdam/dataverse/labourrelations>
- Hoerder, Dirk. *Cultures in Contact : World migrations in the second millennium*. Durham, NC : Duke University Press, 2002.
- Hoerder, Dirk and Amarjit Kaur (eds). *Proletarian and Gendered Mass Migrations: A global perspective on continuities and discontinuities from the 19th to the 21st centuries*. Leiden : Brill, 2013.
- Hoerder, Dirk, Elise van Nederveen Meerkerk and Silke Neunsinger (eds). *Towards a Global History of Domestic and Caregiving Workers*. Leiden and Boston : Brill, 2015.
- Hofmeester, Karin and Christine Moll-Murata (eds). *The Joy and Pain of Work : Global attitudes and valuations, 1500–1650*. Cambridge : Cambridge University Press, 2012.
- Hofmeester, Karin and Elise van Nederveen Meerkerk. 'Family, demography and labour relations', *The History of the Family* 22 (2017) : 3–13.
- Hofmeester, Karin and Jan Lucassen. 'Shifting labor relations in the Ottoman Empire and Turkey 1500–2000', *International Labor and Working-Class History* 97 (2020) : 6–27.
- Hofmeester, Karin and Marcel van der Linden (eds). *Handbook Global History of Work*. Berlin : Walter de Gruyter, 2018.
- Hofmeester, Karin and Pim de Zwart (eds). *Colonialism, Institutional Change and Shifts in Global Labour Relations*. Amsterdam : Amsterdam University Press, 2018.
- Hofmeester, Karin. 'Diamonds from mine to finger : Doing global labour history by way of a luxury commodity'. In *The Global History of Work : Critical readings. Vol. II : Work sites*, edited by Marcel van der Linden, 135–53. London : Bloomsbury Academic, 2019.
- Hofmeester, Karin. 'Labour relations: Introductory remarks'. In Hofmeester and van der Linden, *Handbook Global History of Work*, edited by Karin Hofmeester and Marcel van der Linden, 317–27. Berlin : Walter de Gruyter, 2018.
- Hofmeester, Karin, Gijs Kessler and Christine Moll-Murata (eds). *Conquerors, Employers and Arbiters : States and shifts in labour relations, 1500–2000*. Cambridge : Cambridge University Press, 2016.

- Hofmeester, Karin, Jan Lucassen and Filipa Ribeiro da Silva (eds). 'Labour relations in Sub-Saharan Africa', special section of *History in Africa* 41 (2014) : 249–306.
- Hubner, Peter, Christoph Klessmann and Klaus Tenfelde (eds). *Arbeiter im Staatssozialismus : Ideologischer Anspruch und soziale Wirklichkeit*. Cologne : Bohlau, 2005.
- Hubner, Peter and Klaus Tenfelde (eds). *Arbeiter in der SBZ-DDR*. Essen : Klartext Verlag, 1999.
- ILOSTAT. <https://ilostat.ilo.org/>.
- Javaanse contractarbeiders in Suriname 1890–1930. National Archives of the Netherlands. <https://www.nationaalarchief.nl/onderzoeken/zoekhulpen/javaanse-contractarbeiders-in-suriname-1890-1930>.
- Joshi, Chitra. 'Dak roads, Dak runners, and the reordering of communication networks', *International Review of Social History* 57 (2012) : 169–89.
- Kessler, Gijs and Jan Lucassen. 'Labour relations, efficiency and the great divergence: Comparing pre-Industrial brick-making across Eurasia, 1500–2000'. In *Technology, Skills and the Pre-Modern Economy in the East and the West*, edited by Maarten Prak and Jan Luiten van Zanden, 259–322. Leiden and Boston : Brill, 2013.
- Kirk, Neville. 'Transnational labor history: Promise and perils'. In *Workers across the Americas : The transnational turn in labor history*, edited by Leon Fink, 18–22 New York : Oxford University Press, 2011.
- Komlosy, Andrea. *Work: The last 1,000 years*. Trans. Loren Balhorn and Jacob K. Watson. London and New York : Verso, 2017.
- Komlosy, Andrea and Goran Music (eds). *Commodity Chains and Labor Relations*. Leiden and Boston : Brill, 2021.
- Levasseur, Emile, *Histoire des classes ouvrières en France depuis la conquête de Jules César jusqu'à la Révolution*. Two volumes. Paris : Guillaumin, 1859.
- Lieten, Kristoffel and Elise van Nederveen Meerkerk (eds). *Child Labour's Global Past, 1650–2000*. Bern : Peter Lang, 2011.
- Linebaugh, Peter and Marcus Rediker. *The Many-Headed Hydra : Sailors, slaves, commoners, and the hidden history of the revolutionary Atlantic*. Boston : Beacon Press, 2000.
- Lucassen, Jan (ed.). *Global Labour History: A state of the art*. Bern : Peter Lang, 2008.
- Lucassen, Jan. *The Story of Work : A new history of humankind*. New Haven, CT : Yale University Press, 2021. ヤン・ルカセン著, 塩原通緒・桃井緑美子訳『仕事と人間——70万年のグローバル労働史』(NHK出版, 2024年)
- Lucassen, Jan and Leo Lucassen (eds). *Globalising Migration History : The Eurasian experience*. Leiden and Boston : Brill, 2014.
- Lucassen, Jan and Leo Lucassen. 'The mobility transition revisited, 1500–1900 : What the case of Europe can offer to global history', *Journal of Global History* 4 (2009) : 347–77.
- Marques, Leonardo. 'Digital history of the Transatlantic slave trade : An interview with David Eltis', *Tempo* 25 (2019) : 520–7.
- Martinez, Julia T. and Adrian H. Vickers. *The Pearl Frontier: Indonesian labor and indigenous encounters in Australia's Northern Trading Network*. Honolulu : University of Hawaii Press, 2015.
- Martínez, Julia, Claire Lowrie, Frances Steel and Victoria Haskins. *Colonialism and Male Domestic Service across the Asia Pacific*. London : Bloomsbury Academic, 2019.
- Mattos, Marcelo Badaró, Filipa Ribeiro da Silva, Paulo Matos, Raquel Varela and Sonia Ferreira (eds). *Relações laborais em Portugal e no mundo lusófono : História e demografia*. Lisbon : Edicoes Colibri, 2014.
- Mattos, Marcelo Badaró, Paulo Terra and Raquel Varela (eds). *História das Relações de Trabalho: Brasil e Portugal em Perspectiva Global*. Rio de Janeiro : Consequencia Editora, 2017.

- Maul, Daniel. *The International Labour Organization : 100 years of global social policy*. Berlin : He Gruyter Oldenbourg, 2020.
- McKeown, Adam. 'Global migration, 1846-1940', *Journal of World History* 15 (2004) : 155-89.
- McKeown, Adam. *Melancholy Order: Asian migration and the globalization of borders*. New York : Columbia University Press, 2008.
- Migration Data Portal. <https://www.migrationdataportal.org/>.
- Mysyk, Avis. 'Land, labor, and indigenous response : Huaquechula (Mexico), 1521-1633', *Colonial Latin American Review* 24 (2015) : 336-55.
- Parnaby, Andrew. 'Indigenous labor in mid-nineteenth-century British North America : The Mi' kmaq of Cape Breton and Squamish of British Columbia in comparative perspective'. In *Workers across the Americas : The transnational turn in labor history*, edited by Leon Fink, 109-35. New York : Oxford University Press, 2011.
- Phelan, Craig. 'Editorial introduction', *Labor History* 45 (2004) : 3-7.
- Phelan, Craig (ed.). *Trade Unionism since 1945 : Towards a global history*. Oxford : Peter Lang, 2009.
- Riseman, Noah. 'Australian [mis] treatment of indigenous labour in World War II Papua and New Guinea', *Labour History* 98 (2010) : 163-82.
- Rodriguez García, Magaly. *Liberal Workers of the World, Unite? The ICFTU and the defence of labour liberalism in Europe and Latin America, 1949-1969*. Oxford : Peter Lang, 2010.
- Rodriguez García, Magaly, Lex Heerma van Voss and Elise van Nederveen Meerkerk (eds). *Selling Sex in the City : A global history of prostitution, 1600s-2000s*. Leiden and Boston : Brill, 2017.
- Seibert, Julia. *In die globale Wirtschaft gezwungen: Arbeit und kolonialer Kapitalismus im Kongo (1885-1960)*. Frankfurt am Main : Campus, 2016.
- Siefert, Marsha (ed.). *Labor in State Socialist Europe, 1945-1989 : Contributions to a history of work. Budapest* : Central European University Press, 2020.
- Silver, Beverly J. *Forces of Labor: Workers' Movements and Globalization since 1870*. Cambridge : Cambridge University Press, 2003.
- Silver, Beverly J. Giovanni Arrighi and Melvyn Dubofsky (eds). 'Labor unrest in the world-economy, 1870-1990', special issue of *Review* [Fernand Braudel Center] 18 (1995) : 1-206.
- Sinha, Nitin, Nitin Varma and Pankaj Jha (eds). *Servants' Pasts Vol. 1 : 16th-18th centuries*. New Delhi : Orient Blackswan, 2019.
- Sinha, Nitin and Nitin Varma (eds). *Servants' Pasts Vol. 2 : 18th-20th centuries*. New Delhi : Orient Blackswan, 2019.
- SlaveVoyages. <https://www.slavevoyages.org/>.
- Slucki, David. *The International Jewish Labor Bund after 1945 : Toward a global history*. New Brunswick, NJ : Rutgers University Press, 2012.
- Smallwood, Scott and David Glenn 'Editor of "Labor History" quits, and dozens join him; Oxford Press hires editor from Princeton', *The Chronicle of Higher Education*, 4 July 2003.
- Sozialgeschichtliche Kommunismusforschung. Special issue of *Bohemia : A Journal of History and Civilisation in East Central Europe*, 42, 2001.
- Stanziani, Alessandro (ed.). *Le travail contraint en Asie et en Europe : XVII-XXe siècles*. Paris : Editions de la Maison des sciences de l'homme, 2010.
- Stanziani, Alessandro. *Bâtisseurs d'Empires, Russie, Chine et Inde à la croisée des mondes, XVe-XIXe siècle*. Paris : Raisons d'Agir, 2012.
- Stanziani, Alessandro. *Bondage : Labor and rights in Eurasia from the sixteenth to the early twentieth centuries*. New York and Oxford : Berghahn, 2014.

- Stanziani, Alessandro. *Labour, Coercion, and Economic Growth in Eurasia, 17th–20th Centuries*. Leiden and Boston : Brill, 2013.
- Stromquist, Shelton. *Claiming the City: A global history of workers' fight for municipal socialism*. London and New York : Verso, 2023.
- Taylor, Marcus and Sebastien Rioux, *Global Labour Studies*. Cambridge and Medford, MA : Polity, 2018.
- Van der Linden, Marcel (ed.). *The Global History of Work : Critical readings*. Four volumes. London : Bloomsbury, 2019.
- Van der Linden, Marcel (ed.). *The International Confederation of Free Trade Unions*. Bern : Peter Lang, 2000.
- Van der Linden, Marcel and Magaly Rodriguez García (eds). *On Coerced Labor : Work and compulsion after chattel slavery*. Leiden : Brill, 2016.
- Van der Velden, Sjaak. 'Strikes, Lockouts, and Informal Resistance' In *Handbook Global History of Work*, edited by Karin Hofmeester and Marcel van der Linden, 521–50. Berlin : Walter de Gruyter, 2018.
- Van der Velden, Sjaak. *Striking Numbers : New approaches to strike research*. Amsterdam : IISH, 2012.
- Van der Walt, Lucien and Steven Hirsch (eds). *Anarchism and Syndicalism in the Colonial and Postcolonial World, 1870–1940 : The praxis of national liberation, internationalism, and social revolution*. Leiden and Boston : Brill, 2010.
- Van Goethem, Geert. *The Amsterdam International : The world of the International Federation of Trade Unions (IFTU), 1913–1945*. Burlington, VT : Ashgate, 2006.
- Van Nederveen Meerkerk, Elise. *Women, Work and Colonialism in the Netherlands and Java : Comparisons, contrasts and connections, 1830–1940*. London : Palgrave Macmillan, 2019.
- Van Zanden, Jan Luiten, Joerg Baten, Marco Mira d'Ercole, Auke Rijpma, Conal Smith and Marcel Timmer (eds). *How Was Life? Global well-being since 1820*. Paris : OECD, 2014.
- Varela, Raquel, Hugh Murphy and Marcel van der Linden (eds). *Shipbuilding and Ship Repair Workers around the World: Case studies 1950–2010*. Amsterdam : Amsterdam University Press, 2017.
- Waters Jr., Robert Anthony and Geert Van Goethem (eds). *American Labor's Global Ambassadors : The international history of the AFL-CIO during the Cold War New York*. Palgrave Macmillan, 2013.
- Weiss, Holger. *Framing a Radical African Atlantic: African American agency, West African intellectuals and the International Trade Union Committee of Negro Workers*. Leiden and Boston : Brill, 2014.
- Zeuske, Michael. *Handbuch Geschichte der Sklaverei : Eine Globalgeschichte von den Anfängen bis zur Gegenwart*. Berlin : Walter de Gruyter, 2013.
- Zürcher, Erik-Jan (ed.). *Fighting for a Living : A comparative study of military labour, 1500–2000*. Amsterdam : Amsterdam University Press, 2014.